

## 発達障害 (7歳)



### はじめ

現在小学校1年生のA君が最初に何かあるかもしれないと保健師に指摘されたのは3歳児健診でした。名前や年齢などの質問には答えるのですが、すぐに持ってきた絵本に夢中になってしまいます。保健師がお母さんに「いつもこんな感じですか?」と聞いてみたところ、「この絵本が大好きなのですぐに没頭してしまいます」という答えが返ってきました。診察を担当している小児科医師に相談しても、運動の遅れも言葉の遅れも発達の遅れもないから大丈夫だろうという答えでした。

### 気づき

幼稚園に入り、初めて集団での生活が始まりました。友だちができなくていつも一人で部屋の隅で絵本を見ているA君のことを心配した幼稚園教諭が、巡回相談できていた公認心理師に相談しました。「集中力はすごいけれども、他人とのかわり方が上手ではないみたいだから、急がずに少しずつ集団に入れてみたら?あと時々耳をふさぐ動作があるからもしかしたら音に対する過敏があるかも」と言われました。「医療機関に受診させた方がよいでしょうか」と聞いたら、「今は困っていないから、急がなくてもよいのでは」と言われました。

その後の幼稚園生活では大きなトラブルもなく、部屋の隅で絵本を読んだりブロックを組み立てたりという時間が長かったのですが、幼稚園教諭に促されると、ほかの子と一緒に砂遊びをしたりしましたが、鬼ごっこやおままごとなどルールや役割のある遊びは苦手でした。会話は一方的になりがちでしたが質問に答えることもでき、トイレや食事、着替えも自立しており、ひらがなも読めるようになってきました。

就学児健診では初めての場所だったせいか落ち着いて座っていることが出来なくて、部屋から出てしまったり、泣き出ししたりしたために、健診自体での異常は

特になかったのですが、就学支援委員会での二次検査を受けることになりました。そこでは落ち着いていたので、小学校は通常学級が適していると判定され、就学しました。

### つなぐ

心配した両親が、入学式は会場を下見させてもらったこともあり、落ち着いて出席できましたが、学校が始まって3日目くらいから教室で耳ふさぎをすることが増え、授業も聞いていないし、連絡帳も持ってこない日が続きました。心配した担任が特別支援教育コーディネーターも交えて、両親と面談しました。両親が心配していたこともあり、予約が取れたこともあって児童精神科医を受診しました。ここではいろいろな検査も行い、知的障害のない自閉スペクトラム症と、注意欠如・多動症の可能性を指摘されました。音に対する過敏がありそうなので、合理的配慮としてのイアーマフの使用を勧められ、投薬よりも対応の練習を勧められて、通級指導教室も利用することになりました。

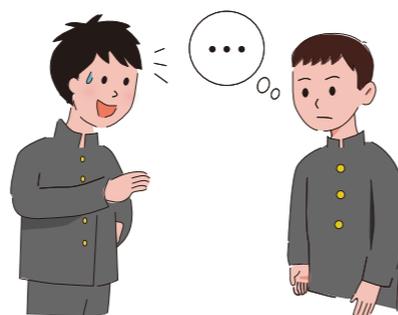
### その後

気になったときにはイアーマフを使うことで耳ふさぎも減り、授業中も落ち着いている時間が増えてきました。また通級指導教室でのソーシャルスキルトレーニングを行うことで、ほかの子とのコミュニケーションやゲームの参加も少しずつできるようになってきました。このまま連携を続けていく予定です。

### 連携する職種と部署

- 職種** ・保健師<sup>77</sup>・小児科医<sup>70</sup>・幼稚園教諭・心理士<sup>72</sup>  
・特別支援教育コーディネーター・児童精神科医<sup>71</sup>
- 部署** ・就学相談委員会・通級指導教室<sup>86</sup>

## 場面緘黙 (8歳)



### はじめ

Aさんは小学校3年生です。家では普通にしゃべるのですが、学校では一言もしゃべることができません。休み時間はクラスメートの輪のなかに入れないので一人で過ごすことが多く、一番つらい時間です。最近は、お腹や頭が痛くなることが多くなり保健室に行くことが増えてきました。

3歳児健診の時、一言もしゃべらなかったので二次健診担当の心理士の面接を受けましたが、ことばの遅れはなく、家では普通にしゃべっているので心配ないだろうと言われました。幼稚園でも、入園後1年経つのに同じような状態だったので、お母さんが担任の先生と相談しましたが、「恥ずかしがり屋さんだけで、活動には参加できるので心配ありません。しゃべるようになりますよ」と言われたそうです。両親も小学校に入学したらしゃべるようになると考え様子を見ていたそうです。

### 気づき

小学校入学後、発表もできないし、休み時間も会話に入っていけないので、いじめられているわけではないのですが、一人で過ごすことが多くなっていました。担任がスクールカウンセラー(SC)さんに相談したら、小児科の受診を勧められ受診しました。小児科の先生から「場面緘黙という不安症の一つで少し時間はかかるがしゃべるようになるよ。家と学校での取り組みを一緒に考えよう」と言われたので、少し不安が少なくなりました。心理士さんとの面接も定期的に行うようになりました。

### つなぐ

3年生になり夏休みの前、まだしゃべれていなかったのですが、担任から特別支援教育コーディネーター担当の先生との相談を勧められ、通級指導教室や自閉情緒障害学級の利用ができることがわかりました。学校長さんは校内教育支援委員会

を開催し、そこで、通級指導教室が適切との判定を受けました。他校にある通級指導教室に2週間に1回通うことになりました。通級指導教室では最初はしゃべることができませんでしたが、徐々にしゃべることができるようになりました。小学校では、発表ができず、休み時間もクラスメートの会話に入っていけないため一人で過ごすことが増えてきました。

### その後

6年生になると、算数など答えがはっきりしている問題には、声が小さいですが答えることができるようになりました。しかし、一人を除いてクラスの子との会話はできませんし、地域でも家族以外との会話はまだできませんでした。中学校は、少し遠くの私立中学校への受験を希望しました。「しゃべれない自分を知らない子ばかりの学校だったらしゃべれる」と強く思うようになっていたのです。両親は知らない人ばかりの学校への受験を最初は賛成してくれませんでした。説得し受験しました。中学校進学後、自分でもびっくりするくらいにしゃべれるようになりました。テニス部に入部して楽しい中学生を送っています。小児科では、心理士さんとのカウンセリングも続け悩みを相談しています。

### 連携する職種と部署

職種 ・ 心理士<sup>72</sup>・ 担任の先生 ・ スクールカウンセラー<sup>76</sup>・ 小児科医<sup>70</sup>

・ 特別支援教育コーディネーター ・ 学校長

部署 ・ 小児科クリニック<sup>80</sup>・ 通級指導教室<sup>86</sup>

## 親が叩く・怒鳴る (9歳)



### はじまり

Aくんは学校で切れやすい、級友が止めようとするとうと暴言を吐く、叩く、噛む、唾を吐きかける、目が座り、時に学校を飛び出すなどの行動が、2学期が始まり目立つ様になりました。

### 気づき

担任は1学期から、休み明け(特に長期)に調子が悪くなるAくんに気づき、養護教諭とともに関わっていました。

### つなぐ1

夏休み後の急な悪化を受け担任が小児科医に助言を求め、学校に行き、話を聞くことになりました。二人の声が聞こえる隣の部屋に待機し、声かけの仕方のアドバイスを小児科医から受けた担任はAくんに次の様な声かけをしました。「Aくん、先生、Aくんのことが心配になっちゃった。何か心配なことがあるのかな?」-首を横に振る-「どうしていいかわからないことがある?」-頷く-「そうなんだ。だったら先生に教えてくれる?」-黙ってじっとしている-「先生とAくんの二人だけの内緒にするならいいかな?」-担任の目をじっと見つめてくる-(担任も優しく、でも真剣に、ちょっと見返して、大袈裟にではなく、にっこりしながら)「先生と話そうか?」とうながした。

Aくんの話では、「いつもじゃないけど、お父さんから叩かれる」、「僕が言うことを聞かないので、僕が悪いんだけど、お父さんからお母さんからも、頭が悪い、何をやってもダメ、我が家の恥だ、いない方が良かった、うちの子供じゃない」等の暴言を毎日のように言われている。「何回謝っても許してくれない、時々自分のご飯を犬のエサにしている」、「欲しいならそれ(犬のエサ皿)で食べる、犬以下だ、犬の方が役に立つ」と9歳の子どもとは思えない激しい口調で再現してくれました。この様な喋り方は、実際に言われ続けていないと決して言えないと思う内容でした。

担任は、「悔しかったね」、「悲しかったね」と小声で何度もAくんに語りかけ、そっと

肩を抱きました。Aくんの怒りの眼に涙が滲み、怯える様な眼と威嚇する様な眼が何度も繰り返しながら出て来る中、最後は、まるで幼い子が泣く様に泣きじゃくり始めました。担任は、「Aくん、先生がいるからね、一人じゃないよ」と優しく声をかけ続けました。「Aくんと一緒に、どうしたら良いか考えようね」、「Aくんが自分で決めるのが難しい時は、先生と一緒に考えてあげるからね」、「もう大丈夫、よく話してくれたね」-そっと頷くAくんから怒りの眼が少しずつ消えていきました。

### つなぐ2

その後、Aくんと担任は何度か話し合い、兄弟の中でAくんだけがその様な仕打ちを受けている事、ほとんど父親が行う中で、時折母親も加わる事など、いつ、どこで、どんな事をされ、言われたかという事を記録に残しました。

同時に、市の要保護児童対策地域協議会と児童相談所にAくんについて担任が校長とともに相談しました。学校で把握する前に様々な他機関(市の母子保健課、子ども子育て課、児童虐待予防の各主管課、かかりつけ医、保育所等)で関わった際のAくんの家族についての情報を整理しながらケース会議を開催し、今後の方針を決めました。

### その後

Aくんの同意の下、担任がスクールカウンセラー(SC)と定期的に話を聞く中で、問題行動は徐々になくなりました。ケース会議の結果、もともとこだわりと衝動的な行動のため行動特性のある子として療育をうけていたが、就学を期に中断していた事。母中心の関わりに、父親から「お前の育て方が悪い」と言われ、その後父の言いなりになっていたこと。母親がAくんを叱らないと父親から何をされるかわからないので母親もAくんを叱るようになった事などが語られました。現在、児童相談所中心の親子関係再構築プログラムに両親と時に担任やスクールカウンセラーが参加し、Aくんの状態も徐々に改善しています。

### 連携する職種と部署

- 職種** ・養護教諭<sup>76</sup>・担任の先生・小児科医<sup>70</sup>・学校長・スクールカウンセラー<sup>76</sup>  
**部署** ・要保護児童対策地域協議会<sup>94</sup>・児童相談所<sup>88</sup>・母子保健関連部署(課)<sup>92</sup>  
・子育て支援部署(課)<sup>91</sup>・保育所

## 知的な問題 (10歳)



### はじまり

Kくんは、最近お母さんへ「学校お休みしてもいい？」と話すようになり、理由を聞いても説明できず、叱られることが増えました。どこか元気がなく、寝る前まで宿題が手につかず、だらだら遅くまで宿題をする日が増えてきたことをお母さんは心配していました。

### 気づき

担任の先生が提出物を集める時に、いつまでも提出物を出さずに止まっているKくんに気づき声を掛けます。「どうしたの？ 忘れた？」と聞きますが、黙ったまま返事ができずにいました。担任の先生が心配になり、お母さんへ電話連絡すると、お母さんは今朝、宿題を終わらせて慌てて学校へ行ったと言います。また、4年生になってから「以前と違う様子」が気になっていると先生はお話しされました。集団行動や全体授業の時に行動が遅いことを同級生から指摘されることや、他の先生から叱責される場面が増えたことを担任の先生から聞き、お母さんは驚きました。担任の先生は家や学校生活の困りについて、小児科の先生に相談することやスクールカウンセラーさんとお話しすることを勧めました。

### つなぐ

1週間後にお母さんとお父さん、Kくんは小児科の先生に相談に行きました。小児科の先生は、丁寧に話を聞いてくれました。そして、眠りにくさや食欲がないなど、体にも症状があることをお話ししました。大切なことは、困っていることの原因を知るため、「自分のことを知る」ことだとお話ししてくれました。また、心理検査を心理士さんとすることや、「ゆっくりでいいから、心配なことや困っていることをみんなで解決しよう」と優しく話してくれました。お父さん、お母さんには、「いろんな特徴の子どもさんがいて良いはずなので、Kくんに合ったわかり易さを

大切にして、お母さんやお父さんの心配もゆっくり解決しましょう」と笑顔でお話しました。お父さんやお母さんもどうして良いか分からなかった不安を相談できてホッとした様子でした。また、役場にも相談に行き、児童相談員やソーシャルワーカー（精神保健福祉士）さん、にも協力してもらうように提案されました。

### その後

検査の結果、Kくんは、短く簡単な小さなステップに分けるようにしてお話を聞いて、絵や写真も使った説明の方がわかり易いことが明らかになりました。国語と算数の時間を特別支援学級の先生と一緒に過ごすようになり、自分のペースでゆっくりわかりやすく教えてもらえることでKくんはとても安心しました。スクールカウンセラーさんと時々お話しすることで、Kくんがどうしてもみんなと同じようにできなくて悲しかったことや、叱られるかもと考えるとお腹が痛くなったこと、お母さんから怒られることを打ち明けて気持ちが楽になりました。お母さんも前は叱ってしまう自分自身がとても悲しかったようでしたが、児童相談員さんやソーシャルワーカーさんに相談して、協力してもらうことで心配事を軽くして気持ちに余裕を持ってKくんと過ごすことができるようになりました。Kくんは、だんだん学校の生活に慣れ笑顔が増えました。そんなKくんの様子を見て、お母さんもすこし自信が持てるように慣れました。

### 連携する職種と部署

職種 ・ 担任の先生 ・ 小児科医<sup>70</sup> ・ スクールカウンセラー<sup>76</sup> ・ 心理士<sup>72</sup>

・ 児童相談員 ・ 精神保健福祉士<sup>73</sup>

部署 ・ 特別支援学級<sup>65</sup>

## イライラする・暴力 (12歳)



### はじめ

A子はどちらかというと大人しいタイプの女の子でした。学業面でのつまずきもなかったのですが、小学校高学年になると、頭痛や腹痛を訴えて学校を休むようになりました。6年生になったA子は授業に集中できなくなり、成績も下がっていきました。次第に登校できなくなり、「勉強しなさい」「学校に行きなさい」などのお母さんの声かけにイライラして怒鳴ったり、物を投げたりするようになってしまいました。

### 気づき

A子は幼い頃から3歳年下の妹のお世話をするのが好きで、妹はA子に憧れるような関係でした。ところが、イライラがおさまらないA子はある日、妹を蹴飛ばし、それを注意したお父さんのことも突き飛ばし、家から出て行ってしまいました。すっかり変わってしまったA子にお母さんはどう接して良いかわからず疲れ切っており、お父さんは警察に連絡してA子を探してもらうことにしました。これ以上A子の暴言暴力を家の中に隠しておくことはできないと考えたのです。

警察官の協力により見つけ出されてA子は家に戻ってきました。警察官は、A子にご両親に心配をかけるようなことはしてはいけないよと声をかけた後、A子にも聞こえるようにご両親にこう伝えました。「困った子は、困っている子です。イライラして、暴力でしか表現できなかったA子の気持ちに向き合ってあげてください。」そして、こう続けました。「家族だけで解決できなくて良いのです。一緒に解決してくれる人を探しましょう。一緒に病院に連れて行ってあげてください。」

### つなぐ

次の週、A子はお母さんと精神科クリニックを訪ねました。A子とお母さんの話を聞いた精神科の先生は、もともと成績もよく、気の利くA子が小学校中学年以

降「みんなの前で恥ずかしい思いをしたらどうしよう」と不安が強くなっていったこと。その頃学校を休みたいくらい辛かったけれど、中学受験することも決まっています、両親の期待を裏切るわけにいかないと随分頑張ったこと。同時に、お母さんにとっても自分の子どもの初めての受験なので、プレッシャーが大きく、A子が勉強に集中できるように、ご飯を作ったり、部屋を片付けたり頑張った一方で、A子が学校を休んで勉強が遅れることに焦りがあったこと。お互いの思いが噛み合わず、結果的にイライラや暴力に繋がってしまったのだらうと、説明してくれました。先生は「A子を学校に行かせるのをやめましょう」とお母さんに提案しました。先生から「A子が十分休憩を取って、生活リズムを整えたら必ずまた元気が溜まる」と言われてお母さんも納得し、A子はやっとほっとできたのでした。

それから通院を続け、A子に少し余裕ができてくると、お母さんはやはりA子が登校できていないことに不安が募り始め、A子自身も両親の期待に応えられないことに落ち込むようになりました。しかし、以前のようにイライラして暴力を振るうことはありませんでした。精神科の先生はご両親、担任教師、養護教諭と一緒に面談を開き、学習のサポート、登校刺激も学校から行い学校で過ごす時間を少しずつ増やすこと、家の中でお母さんだけに負担がかからないよう、お父さんの役割も決め、A子の支援をみんなで行うことを約束しました。

### その後

A子もご両親も少しずつ日常を取り戻しています。A子は担任の先生の勧めでスクールカウンセラーにも相談に行くようになりました。自分のイライラに気づくことを心がけ、今では暴力的になることはなくなりました。

### 連携する職種と部署

職種 ・ 警察官 ・ 精神科医<sup>70</sup> ・ 担任教師 ・ 養護教諭<sup>76</sup>

・ スクールカウンセラー<sup>76</sup>

部署 ・ 精神科クリニック<sup>82</sup>